

千葉県の実風被害について考える

シビル NPO 連携プラットフォーム
理事・事務局長
内藤 堅一



シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)の事務局長をしています。CNCP 通信を編集している立場ですが、急遽今月のコラムを書くことになりました。

今回は千葉県の受けた台風の被害とその復旧について少し書いてみたいと思います。私は千葉県の北西部にある松戸市に住んでいますが、今回の台風の実害は全く受けませんでした。千葉県の南部は台風 15 号では強風による被害、台風 21 号では茂原市等が大雨による甚大な被害を受けました。

台風 15 号は 9 月 9 日(月)未明に千葉県に上陸しました。千葉県はそれまであまり台風の実害を受けていませんでしたが、15 号では強風により市原市でゴルフ練習場のフェンスの鉄骨が民家側に倒れましたし、君津市の山間部では送電線の鉄塔が 2 基倒壊しました。これらはテレビでも報道されましたので、記憶に残っている方も多いと思います。強風で 7 万 5 千棟の住家に被害が出て、年末になっても屋根の修理の順番待ちでブルーシートがかけられたままの住宅が多いと報道されていました。電柱が多数倒れて、ピーク時には約 9 3 万 5 千戸が停電し、山武市では 1 カ月近く停電しました。大量の杉が倒木したのも、停電の要因に加えて、新たな課題を突き付けました。

台風 15 号での長期間の停電に対し、東京電力の復旧見込みの甘さを指摘する報道も多くなりましたが、山間部で多くの樹木や電柱が倒れて、電線が切断されたことが原因で、被害の全体を把握できなかったことが復旧見込みの大幅なずれにつながったのだと思います。

この被害を見て、電線の地中化のことが、まず頭に浮かびました。CNCP の法人正会員の「電線のない街づくり支援ネットワーク」が電線の地中化を熱心に推進しています。その主張は、入会当時は京都の街並みから電線をなくして良い景観を確保しようということだったと思いますが、最近では大地震時の電柱の倒壊による家屋や人への防災の観点から推進を図っているように思われます。台風による山間部での電柱の倒壊は想定外で、活動の範疇の中にはないように思いますが、新たな課題として提起したいと思います。

電気の重要性は誰もが認識していると思います。市民生活も電気が来なければ照明だけでなく、水道も供給できなくなりました。スマホの充電場所ができたりしたことなどは、従来は見られなかった光景でした。

電線の地中化も市街地と山間部では当然異なってくると思います。CNCP も大災害時に NPO の力を発揮できるようにと設立されたと考えていましましたが、今回の台風被害に対しても直接的な支援は何もできませんでした。長期的な課題として今回の災害を踏まえて市街地と山間部の電線の地中化への提言が纏まれば良いと思います。

国土強靱化といった国土整備が、借金財政の中でも重要になっていくものと思います。CNCP がその一翼を担えるようになることを期待します。

以上